

学内広報

2015.9.24

no.1472



これは何?
巻き貝とか!?
(答はp.5に)



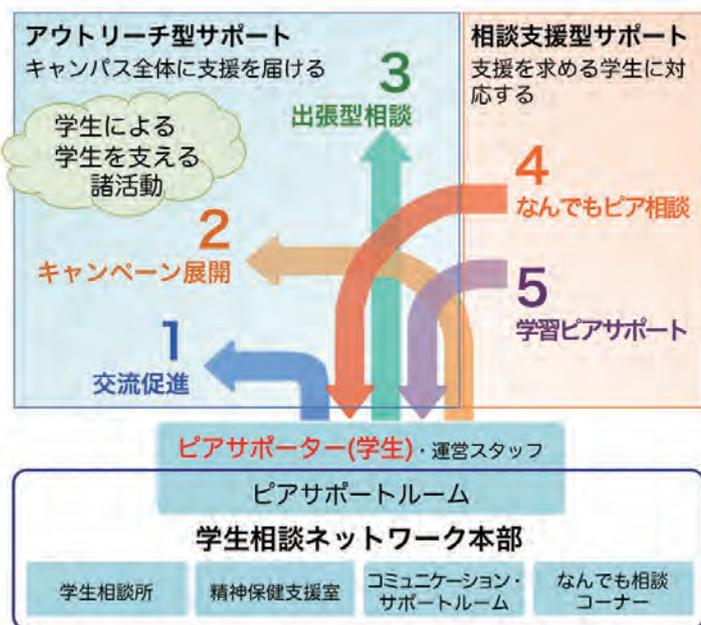
より親密なキャンパスは学生同士の支え合いから
ピアサポートはじめました

開設20周年記念!

広報センター来館者質問応答集

より親密なキャンパスは学生同士の支え合いから

ピアサポート peer support はじめました



ピアサポート活動の具体例

- 1. 交流促進**
ランチアワーや映画鑑賞会など、東大生同士の交流を促進するための企画。
- 2. キャンペーン展開**
ピアサポーターの企画による学生生活支援に関するキャンペーンや講演会など。
- 3. 出張型相談**
入進学時の履修サポート、就職活動についての助言、ブースを設けての相談会など。
- 4. なんでもピア相談**
東大生による東大生のための相談窓口。ワンストップでお話を伺い、必要に応じて適切な窓口につなぐ。
- 5. 学習ピアサポート**
レポートの書き方や定期試験対策など、東大生同士で教えあい学びあう機会を提供する。

ピアサポートルーム室長に聞きました



学生相談ネットワーク本部
准教授

高野 明

ピアサポート活動の目的と理念

ピアサポートとは、学生生活上で支援(援助)を必要としている学生に対し、仲間である学生同士で気軽に相談に応じ、手助けを行う活動です。東京大学憲章で謳われている他者への貢献を第一義とする「市民的エリート」の育成に貢献すべく、学生同士の支え合いの活動を通して学生の心の成長を促すことを目指して、2015年度より、学生相

談ネットワーク本部に「ピアサポートルーム」が設置されました。ピアサポートルームは、学生ボランティアのピアサポーターを組織し、学生が学生を支えるピアサポート活動を全学的に展開していきます。

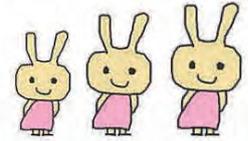
学生相談ネットワーク本部では、なんでも相談コーナー、学生相談所、精神保健支援室、コミュニケーション・サポートルームの各相談施設が、困難を抱えた学生が利用しやすいように敷居をなるべく低くすべく努めていますが、残念ながら相談施設にたどり着く学生は一部に留まっています。そのため、教職員研修や学生対象の予防教育の実施などを通して、大学コミュニティ全体の援助力を高める取り組みに力を入れてきました。ピアサポート活動が機能することで、学生同士が支え合う相互扶助精神がキャンパス全体にさらに広がっていくことが期待されます。

ピアサポートルームの組織と今後の活動について

ピアサポートルームには、本年度より2名の専任教員が配置され、ピアサポーターの養成とピアサポート活動の運営を行っています。また、総合文化研究科・教養学部にも1名の専任教員が配置されており、連携・協働して活動を開始しています。2015年7月現在、40名強の学生からピアサポーターの応募があり、10月頃から本格的に始まる活動のための準備として、ピアカウンセリングの基礎知識と援助技術の習得のためのピアサポーター養成研修を実施中です。

ピアサポート活動の内容としては、ピアサポーターがキャンパスに出て行って支援を届けるタイプの「アウトリーチ型サポート」と、相談室に支援を求めてやってきた学生に対応するタイプの「相談支援型サポート」を有機的に組み合わせて展開していく予定です(上図参照)。

2015年4月、学生相談ネットワーク本部はピアサポートルームを新設しました。学生ボランティアのピアサポーターを組織し、学生同士が支え合って心の成長促進と健康維持を図るピアサポート活動を10月から本格始動します。そこで、室長に活動の概要を解説いただくとともに、ピアサポーターに認定された学生さん4人に、応募の動機、研修の模様、これから活動を始めるにあたっての抱負などを自由に語ってもらう座談会を実施しました。各々の想いを胸に歩み始めたピアサポーターたちをご支援ください。



ピアサポートルームのマスコット（仮）。ウサギは耳が大きいから話がよく聞こえるのです。

ピアサポーター座談会

——予備研修（授業^{※1}受講orビデオ^{※2}学習）と総括講義^{※3}を受け、晴れてピアサポーターに認定された皆さんですが、そもそもどうして応募しようと思ったんですか？

柳光 修士ガイダンスのときに、学生同士で支え合う活動が始まると聞いて、ピーンときたんです。3年次に「ストレスマネジメント概論」という授業に出て、相談というものに興味を持っていたせいもあるかも。

——相談窓口を使ったことは？

柳光 高校の後輩に構内を案内する際にどうすればいいかわからず「なんでも相談コーナー」に入りました。なんでも相談していいと書いてあったので。そこでパンフをいただいて助かった思い出があります。

鈴木 私は相談下手でしたが、精神保健支援室の先生方に支えていただいた経験があり、学内で身近に相談できる存在は貴重だと感じていました。学生側にいることで何かできるかなと思って応募しました。あと、こういう活動に集まるのがどんな人か興味があったのも理由です。

森本 私がピアサポーターに応募したのは、人の話を聞くのが好きだからです。それと、浪人時代、予備校にカウンセリングルーム^{※4}があって、軽い気持ちで行ったら楽しかったんですね。このよさは行ったことがないとわからないので、私が相談窓口と学生をつなぐ役をやりようと思ったんです。

横内 僕は他人に頼るのが不得意で全て自分で解決しようと無理する人間でした。相談窓口など無縁だと思っていましたが、4年で卒論が忙しくなった時期に、家の事情も重なって悩ましい状況に陥り、友達には相談しづらくて、初めて相談所に行きました。そのときの感じがとてもよくて、人に頼っ



てもいいと思えたんです。

——一度行くとよさがわかるんですね。

相談室の空気に惹かれました

鈴木 最初に行ったときに覚えているのは相談室の雰囲気ですごくよかったことです。あまり味わったことのない雰囲気です。

横内 そうそう。空間としていいんだよね。

鈴木 言葉だけではなく、雰囲気とか、部屋自体にもいい作用があると思います。

柳光 なんでも相談コーナーではそこまで感じませんでしたよ。普通の部屋でした（笑）。

鈴木 同じ部屋でも相談する先生が変わると空気の色や動きまで変わるんです。

柳光 先生が部屋の配置を変えたんじゃ？

鈴木 違うの、空気なの。

——研修についてはいかがでしたか？

森本 話の聞き方を学んだ際に、ピアサポーターとして話を聞くのと友達として聞くのとは違うと感じました。友達には自分の意見を言うのが大事だけど、ピアサポーターは議論より寄り添うことが大事、と。

横内 話を聞くだけでも様々な理論^{※5}や技術があり、プロはそれらを把握して実践するから人を助けられるんだと思いました。

※1 授業→総合科目「心身の実践科学」、教育学部「ストレスマネジメント概論」、新領域創成科学研究科「ストレスマネジメント論」のいずれかを受講する。

※2 ビデオ→「学生相談と学生生活サイクル」「支えあいのスキル理論編」「支えあいのスキル実践編」「メンタルヘルスの基礎知識」の4編（1編約30分）を見て学習し、受講確認レポートを提出する。

※3 総括講義→予備研修で学んだことをまとめた講義を受けた後、模擬相談などの体験学習を行う（1日）。

※4 大手の予備校や塾ではこうした相談窓口を設けているとか。学生向けのカウンセリング施設は現代の教育現場にはあって当然なのです。

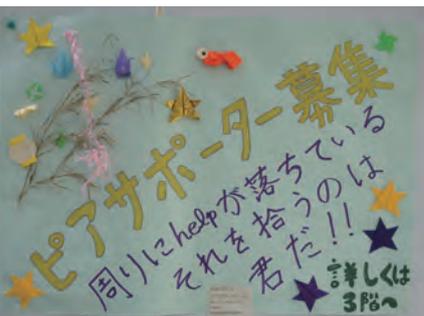
※5 カール・ロジャース、来談者中心療法、無条件の積極的関心、共感的理解、FELORモデルといった語が受講確認レポートに載っていました。

↓5月に行われた結団式にて。ランチアワー、七イベント、飲み会などを実施してピアサポーター同士の交流促進を図っています。





↑勉強会の様子。2週に1回程度希望者が本郷のピアサポートルームに集まり、カウンセラーの先生が用意したテキストなどを輪読しています。



↑セタイベントのときにピアサポーターたちでつくったポスター。コピーライターは柳光さんです。



↑総括講義時に行う模擬相談の様子。相槌を打たない、相手の目を見ないなど、通常と違う条件を課すことで、話の聞き方の要点が体感できます。

↓高野室長率いるピアサポートルームのスタッフの皆さん。問い合わせ：dcs-peer@ml.adm.u-tokyo.ac.jp（内線）22632
http://dcs.adm.u-tokyo.ac.jp/psr/



森本 総括講義では相談する側とされる側に分かれて模擬相談をやりましたが、難しかったです。つい意見を言ってしまっ。

鈴木 私も、助言しないようにと思っつもついでにしまいました。相手の話を繰り返したり要約するのも難しく、複雑な気持ちに何か言葉を割り当てる感じがして、相談者の気持ちを汲んでいるのか心配でした。

架空キャラを設定して模擬相談

柳光 僕は架空のキャラを設定しました。夏になってもサークルに入らなくて、でも入りたくて、どうしたらいいか悩んでいる1年生男子、という設定。

鈴木 私がそのときの相談役で、「時期を外すと入りにくいよね」と返したかな。

森本 問題解決までいかずとも話を聞くことで心が少し楽になるといいですね。

——もし相性が合わない人が来たら……？

柳光 知り合いが相談に来たら別の人に交代してもらいます。お互い話しにくいので。

横内 相談中に困ることがあったらすぐに先生方に相談できる仕組みになっているので、それほど不安はないですよ。

——では不安なことは？

森本 活動が知られていないので、学生が相談に来るかどうかが心配です。勉強会に一般学生も参加してもらおうとか、料理会をやるうとか、いろいろ考えましたけど。

横内 SNSを使って周知しようとか。

柳光 キャンパスを走る警備車にピアサポートの看板をつけよう、とか。

鈴木 柳光君に出てもらう案もありましたね。

横内 DJね。キャラを活かして悩み相談をラジオの深夜放送みたいに、という。

鈴木 人気殺到で「柳光くんがいないなら今日はいいや」ってことになったりして。

——どんな相談を想定していますか？

横内 卒論に関する悩みは多いんじゃないかな。あと、研究室内の人間関係とか。

森本 サークルをどう選んだらいいかわからないとか、履修のしかたとか。

柳光 恋の悩みも相談されちゃうかも。

森本 「こうしたらいいんじゃない？」では

なくて、「こういう人もいたよ」という話はたくさんできるかなと思います。

横内 想定外のことを言われることもあるでしょうね。深刻な話がきたら受け止められるかな、という心配はあります。

森本 総括講義のとき、元彼がストーカーになったという模擬事例がありました。そういう話を実際に聞いたら焦っちゃうかも。

柳光 話を聞いてみてもし重大な問題だとわかった場合は、もっと適切な相談窓口にいっしょに行こうと思っています。

——では活動開始に向け一言ずつどうぞ。

支え合いの空気を東大全体に

森本 私は相談窓口を身近に感じてもらいたいと思っています。1期生で手探り状態なので、情報を共有して相談を受ける側もやっていきやすい仕組みにしたいですね。

鈴木 大学生になると悩みの質が以前とは変わり、これで一件落着くというはっきりした解決は難しいでしょう。そんななかで自分ができるのはとりあえず近くにいること。相談者が大切に思うことを見つける糸口になればいいなと思っています。

横内 名目上はサポートする側とされる側にわかれますが、互いが互いを支えるイメージがあります。この支え合いの雰囲気が東大全体に広がればと思います。東大生はドライだなという印象があるので。

柳光 うんうん（大きく首肯）。大半の東大生は、小中高と成績で競争してきた感じが、その流れですごく学生生活をつまらなく感じた時期がありました。なので、僕は思いやりの輪を広げたいです。皆が他人のことを思いやる大学にするために、この活動が一つのきっかけになればいいな……って、なに言ってんですかね（笑）。

森本 いえ、私もそう思いますよ。最後は自分のために他人を切ることができる人が多い印象です。冷たくはないけど……。

柳光 最近は自分がそのドライな空気に染まりつつあるかなとも感じていて……。

一同 そんなことないって！（以下略）

～広報課からのお知らせ～

広報センター20周年記念！ 来館者質問応答集

学外への広報窓口として龍岡門脇に生まれた広報センターは、9月21日に20周年を迎えました。この小さな施設では日頃どんなやりとりがなされているのか、来館者の質問記録から紹介します。今後とも資料等のご協力とご愛顧をお願いいたします。

「東大出身の総理大臣は何人いるの？」

→首相を夢見る小学生より。数を答え、また来てね、と伝えました。

「アカンサスの植生場所を教えてください？」

→史料編纂所左横や工学部1号館前などを案内しました。

「第二本部棟前の吸気パイプはなぜ緑？」

→安藤忠雄先生の助言で黒から緑色になりました、とお答え。

「コンビニはなぜローソンしかないの？」

→企画提案書が総合的に評価されたようです、とお答え。

「ミドリムシラーメンはどこ？」

→「山手らーめん」さんの場所を案内しました。

「ノーベル賞受賞者の色紙は買えない？」

→残念ながら販売していません、とお答えしました。

「東大と愛知県の関わりを教えてください？」

→愛知県演習林（生態水文学研究所）などをご紹介しました。

「総合図書館前にあった木はどこへ？」

→医学部2号館前広場に移設されたことをお伝えしました。

「三四郎が美禰子と会った場所を教えてください？」

→小説『三四郎』について。資料に基づいて説明しました。

「構内にある柱頭の装飾モチーフは何？」

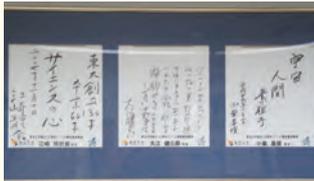
→ナツメヤシの葉、アカンサスの葉など、諸説ある旨を説明しました。

「何か変わったことはない？」

→常連さんより。新しい「淡青」の刊行をお知らせしました。

「冬のひまわりをご存知ですか？」

→医学部本館前のベンチそばにあることを教えていただきました。



左から江崎玲於奈先生、大江健三郎先生、小柴昌俊先生の色紙（1階展示）。



明治19年の「東京大学規則」等を元に再現された制帽は、富士屋制帽店の野本様よりご提供されたもの（1階展示）。



来館者累計（8月31日現在）

123,448人

年間来館者数は1999年に初の5,000人越え。2004年の法人化後に伸びを見せ、2006年には10,000人の大台に。年平均6,359人の方が訪れています（2014年度まで）。



看板の文字を揮毫したのは吉川弘之第25代総長。建物は東京帝国大学附属医院急病者受付所として1926年に竣工されたもので、東京都選定歴史的建造物に指定されています（設計は岸田日出刀）。

「制帽を飾ってくれないですか？」

→ご要望を受け、後に展示させていただきました。

「構内のマンホールの「暗」の意味は？」

→「暗渠」の「暗」のようです、とお答えしました。

「昭和6年の天皇行幸のVHSはある？」

→残念ながらこちらにはありません、とお答えしました。

「近所に野菜や果物を買える店はない？」

→山上会館別館に滞在中の方から。春日通りの店を案内しました。

「横断歩道に千円札が落ちていました」

→警備室に保管後、警察に届けられました。

「構内に鳥の死骸が落ちていました」

→学生さんから。総務課危機管理チームに報告しました。

「湯島天神の梅は見頃ですか？」

→種類が様々なので見頃も様々ようです、とお答えしました。

「ビッグバン宇宙研究所に行くには？」

→名称を確認し、ビッグバン宇宙国際研究センターを案内しました。

「入試当日に正門以外から入るには？」

→高校の先生と会いたくない受験生より。入構可能な別の門を案内。

「この観葉植物は何ですか？」

→農学部から提供された「ドラセナコンシンネ」でした。

「大槌の研究所は震災後も大丈夫？」

→本誌連載「ひょうたん島通信」などで復興状況を紹介しました。

「前に窓口にした人と調査の話がしたい」

→ご本人にお伝えしました（その後、本人同士でやりとり）。

「旧制一高の資料はない？」

→故人の思い出を探していた方より。資料を案内しました。

「学食で使える一般用クーポンはない？」

→残念ながら存じません、とお答えしました。



教養教育の現場から

第11回

リベラル・アーツの風

創立以来、東京大学が全学をあげて推進してきたリベラル・アーツ教育。その実践を担う現場では、いま、次々に新しい取り組みが始まっています。この隔月連載のコラムでは、大学のすべての構成員がぜひ知っておくべき教養教育の最前線の姿を、現場にいる推進者の皆さんへの取材でお届けします。

南京で南大生と行う「考現学」式フィールドワーク

／ゼンショー 東京大学・南京リベラルアーツ学生交流プログラム

お話／教養教育高度化機構国際連携部門
総合文化研究科・特任准教授

白 佐 立



深い交流のために共同作業を導入

——白先生は東大生と南大生（南京大学の学生）の学生交流を担当していらっしゃるんですね。

「以前のプログラムは集中講義だけでしたが、せっかくだから学生交流もやろうということになりました。当初の学生交流は講義後に学生同士で飲食しながら話すだけでしたが、これでは深い交流にはなりません。何か共同作業を行えば交流が深まると思い、東大生と南大生が1対1で組んで行うフィールドワークを導入しました。私は以前、生産技術研究所での大学院生時代に、指導教員の藤森照信先生から考現学や路上観察のおもしろさを教わりました。この経験を活かした形です」

——「考現学」流のフィールドワークですね。具体的にはどのように？

「5日間の日程なのですが、まず学生たちは自己紹介をし合った後、パートナーを選びます。東大生はすぐじゃんけんで決めたいと思いますが、ここでは禁止。言葉のやりとりで決めます。南京市内を10のエリアに分け、各組が話し合っ

てを選び、現場に出ます。最初の2日間は、何か「違和感」を持ったものを写真に撮る。それらをグルーピングし、何に関心があるのかを把握します。3日目の中間発表・討論でそれを具体的なテーマにまで掘り下げた後、再び街へ出て、5日後に最終発表を行うという日程です」

「私が一つ強調したのは、誰でもいいから「東京では会えない人」に話を聞く、ということでした。たとえば、公園で麻雀をする人を見かけておもしろいと思ったときに、ただ通り過ぎるのと、そこで話しかけてみるのでは全然違います」

複雑な世界を複雑なまま理解する

——最終発表で印象的だったのは？

「一つは草で動物を編む道端のおじいさんの話。カマキリや蝶などをつくり、一つ3～10元（1元≒18円）で売る人への取材です。素朴な品なのに意外と人気がある。客は買い物しながら会話を楽しんでいて、そうした交流の場を生むことがご本人の誇りなんだそうです。実際に話を聞かないとわからないことですね」

「南京駅に行ったチームは、農村から都市に出稼ぎに来る農民工にインタビュー

をしました。話を聞くと、待遇も考え方も技術も違い、一言で農民工といっても実態は様々だったそう。中国や農民工といった人々や事象を一括りにする用語の背後にある複雑さを感じ取り、複雑なことを単純化せずに複雑なまま理解するという試みをやってくれたと感じました」

「こうした作業を通じ、既存の知識や既成概念に左右されず「肌で感じたこと」から自分の視点を創り出してほしいんです。東大生はすぐ頭で考えてしまうけど、フィールドワークでまず重要なのは「考えるな、感じる」。いまはググれば情報は出てきますが、自分の体で得た情報のほうが影響力は大きいですからね」

——学生の反応ははどうですか？

「5日間は短く、フィールドワークのおもしろみかわかってきたあたりで帰国なので、もっと時間をかけてやりたかったという学生は多いですね。でもそれは逆にいいことです。現場で腑に落ちないことを抱えたまま帰ってきたら、気にならずずっと考え続けるかもしれませんから」



↑道端で将棋をしながら親切に話してくれた住民たち。



↑市場での鶏肉の売り方。多くの国ではスタンダード。



↑南京駅で話をしてくれた農民工のみなさん。



↑家の中まで案内してくれ



↑初日の作戦会議。地図を見ながら調査エリアを把握。

→参加学生19人のレポートをまとめた冊子『南京に触れる 東大生×南大生フィールド体験記』（全210ページ）。



→草で動物を編むおじいさん。素朴なバツタなどが並びます。手間がかかる鳳凰は10元。

あちこちそちこち
東京大学 第6回

本郷・駒場・柏以外の本学を現場の教職員が紹介

農学生命科学研究科附属演習林
千葉演習林の巻

助教

當山啓介

超長期研究を支える房総の森の拠点



学生宿舎や苗畑がある郷台作業所。山奥。

結果が見えるまで数十年単位の時間がかかる森林や林業の教育研究のため、東大には全国7カ所の異なる環境に演習林があります。

2200ha余りの広大な面積を持つ千葉演習林は明治27年(1894年)設立で、日本最古の大学演習林です。120年の間に社会の趨勢が激しく変わる中、造林学の実習を1895年以来続けるなど一貫した運営を行い、他所では行えない様々な長期研究も実施してきました。

例えば、長らく大きな収入を上げ続けたスギ・ヒノキ人工林は現在では収益性をほとんど失っていますが、1916年以来観測を続ける人工林の成長試験地は森林の地球温暖化防止機能の推定等にも重要なデータを提供しています。戦後いったん絶滅の危機に瀕した千葉県シカは、1980年代からは爆発的に増加して社会問題となっていますが、1909年開設の「野獣園」で長く飼育試験を行うなど研究を重ねてきました。開花周期を解明するための300年試験地のモウソウチクは67年目で一斉開花しました。事業・研究両面で盛んだった木炭生産は廃れましたが、積み重ねた知見は自然エネルギー活用の潮流の中で見直されてゆくでしょう。

今後も教職員一同、素早く遷りゆく社会や研究のトレンドと長期的持続性の両立に悩みつつ、教育・科学・実業への貢献の基盤となるべく、歴史の検証に耐える研究活動と現場管理に努められればと思っています。



1. 1903年築の清澄作業所。2. 森林博物館資料館(清澄作業所に併設)のスギ巨木円板。3. 学生による苗木の植付け。様々な実習等を行っています。4. 起伏の激しい演習林の山並み。

<http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/amami/amami-top.html>

決算のDOOR
～リローデッド～
数字が導く東京大学の未来

第1回

リアルアカウンタビリティ

改めまして、こんにちは。財務部決算課です。今回から始まる新連載のコンセプトは「決算書で東京大学の未来予想図は描けるか」。栄えある第1回目のお題は「説明責任(Accountability)」です。

会計の世界で言う説明責任とは資金提供を受けた者が資金提供者に対し、その活動内容について説明する義務を指します。そのために毎期企業では決算書の開示が義務づけられ、定期または臨時株主総会で直接利害関係者に説明し、理解を求めます。株主総会といえば、古くは総会屋、最近ではかぐや姫(家具屋姫)騒動などが思い浮かびますが、株主にとっては会社の将来を確認し、成長戦略を質す場、企業にとっては、自社の業績の拡大と経営基盤の強化を約束し、株主の声を経営に生かすべく真摯に耳を傾ける場でもあります。

国立大学法人は株式会社ではないため、株主は元より存在しませんが、法人化時に国から出資された土地、建物、毎年措置される運営費交付金の原資は税金。いわば1億2,689万人(H27.8.1現在総務省統計局概算値)の国民のみなさま全員が株主とも言えます。しかも、自ら短期で売買する通常の株主さんと違い、税金は必然的に負わされる義務。「百年の計」である教育そして研究を担う大学には息の長いサポートをしていただかなければなりません。そんな株主のみなさまに、法令上定められた決算書をお見せするだけでは真に申し訳ない。ここは一つ、株式会社並みに自ら財務状況、事業方針について説明をし、ご理解をいただく場を持つことは、我々国立大学法人にとって最早必要不可欠なことと言えるかもしれません。

ということで、東京大学は10月17日(土)14時より「Financial Report 2014」を開催することになりました! 法人化後、しかも国立大学90法人初の試み。限定ライブや美味しいお土産などはご用意できませんが、三大監査法人さんとのトークセッションなども企画しております。日頃、東京大学でお仕事をされているみなさまも納税者。立派な株主の一人であります。いつもとは違う目線で、東京大学が置かれている財務状況、そして目指すべき将来ビジョンについて一緒に考えてみませんか? 当日お待ちしております!(青)

Financial Report 2014

日時:平成27年10月17日(土) 14時~
(第14回ホームカミングデイ)

場所:山上会館大会議室
入場無料、どなたでもご出席いただけます

財務部決算課(内線22108)

E-mail: kessanka@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

ワタシのオシゴト 第115回

RELAY COLUMN

情報学環
研究協力係・係長

小塚直美

色々幅広くやっています



最近改修したばかりの綺麗な事務室です。

皆さんは、情報学環がどのような組織かご存知でしょうか？ 情報学環が本所属の先生（基幹教員）と、他の部局から期間限定で所属する先生（流動教員）で構成されており、文、工、医、芸術等様々な分野の研究を行っている文理融合の組織です。

研究協力係では、科研費・共同研究・受託研究の申請・契約・報告手続のほか、国際交流事業、寄付金、研究員の受入などを行い先生方の研究の支援をしています。事務補佐員と二人係のため、ほぼ全てを担当しています。

また流動教員に係る業務の場合は、流動元の各部局事務とのやり取りや連携が必要となります（流動元部局事務の皆様には、いつもご理解ご協力をいただき、本当に感謝いたしております）。仕事の幅が広いため大変な部分もありますが、色々な仕事を覚えられやりのある職場です。

仕事に追われる日々ですが、昼休みに御殿下体育館で卓球をしてリフレッシュしています！

お昼卓球の仲間と♪ 随時参加者募集中！



得意ワザ：（電車で）立ったまま眠れる
自分の性格：裏方役が好き
次回執筆者のご指名：三宅順一さん
次回執筆者との関係：前職場の同僚
次回執筆者の紹介：かなりの缶コーヒー好き

Crossroad

産業界と大学がクロスする場所から、産学連携に関する“最旬”の話題や情報をお届けします。

産学連携本部

第118回

EDGEプログラムの取り組み

～全国アントレプレナー大学教員ワークショップ～

グローバルアントレプレナー育成促進事業（EDGEプログラム）の目的の一つに新事業の創出を促進する人材の育成があります。今回は、そのEDGEプログラムの中の共通基盤事業として行う、大学において研究成果を事業化に繋げる役目を担うアントレプレナー教員に関する取り組みについてです。

新事業創出の基となる研究成果を発掘し、ビジネスにまで押し上げる事は急務となっております。その解決の一助になればと、8月3、4日の2日間、産学連携プラザにおいて全国の担当教員のためのワークショップを開催しました。北大、筑波大、東工大、東京医科歯科大、早大、青山学院大、名大、滋賀医科大、奈良先端科学技術大学院大、阪大、大阪府立大、神戸大の教職員16名が参加され、本学の3つの研究成果（医用超音波、匂いセンサ、曲げ伸ばし可能な有機トランジスタ）をテーマにした事業化構想を立案し、テーマ毎に活発なグループ討議を行いました。この活動の中で、本産学連携本部の教員から構想立案の要件や事例紹介も行い、最終案を実際に投資家の前で発表し、プロの投資家の目から見た評価や改善点をコメントして頂くという内容でした。この発表には、基となった研究成果を創出された東大の研究者も加わり、研究者、担当教員、投資家の3者間で多角的かつ立体的な議論が行われ、参加者はもとより我々主催者側にとっても非常に有益なワークショップとなりました。また、普段横の繋がりが無い担当教員同士が交流をもつ貴重な機会ともなり、とても有意義な時間を過ごすことができました。

ですが、これらのスキルアップは一回のワークショップではとても達成できないという声も多数寄せられておりますので、12月に開催される「UVGP (University Venture Grand Prix) 2015」というビジネスコンテストの場をお借りして、新たに模擬審査体験ワークショップを開催する予定であります。

これらの活動が全国の担当教員のスキルアップに繋がっていけば幸いです。



<http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/>

インタープリターズ・ バイブル

第98回

総合文化研究科 教授
教養学部附属教養教育高度化機構
科学技術インタープリター部門

藤垣裕子

人文・社会科学インタープリター

「科学技術インタープリターがあるのなら、人文・社会科学インタープリターがあってもいい」というのが前研究科長（現教育担当理事）の口癖であった。6月8日の文部科学大臣による「人文社会科学や教員養成の学部・大学院の縮小や統廃合を求め、社会的養成の高い分野への転換」を求める通知を見て以後、その意義をますます感じるようになった。この通知に対して日本学術会議は7月23日に声明を出し、第6項目として「学術全体に対して人文・社会科学分野の学問がどのような役割を果たすのかについて、これまで社会に対して十分に説明してこなかったという面があることも否定できない」ことを挙げている。つまり、科学技術インタープリターが科学技術の社会への説明責任を果たすように、人文・社会科学インタープリターは、人文・社会科学の社会への説明責任を果たす必要がある。

さて、学術全体に対して人文・社会科学分野の学問が果たす役割には少なくとも3種類あり、1) 人文社会もイノベーションに役立つという考え方、2) 人文社会はすぐには役に立たないが、長い時間を経て役に立つものであるという考え方、そして3) そもそも役にたつという価値と独立した価値をもち、「文化」の土台、すなわち知的世界の「土壌」を作るという考え方がある。ある社会学者は、「テクスチュアル・パフォーマンスそのものが時代の規範を乗り越えていくというテキストの圧倒的な力」を評価し、「テキストというものを文学テキストに狭く限定しないで、文字で書かれたものすべてをテキストと考えれば、テキストによって遂行される実践、テクスチュアル・パフォーマンスにはいまでも力がある」と主張する。つまり、人文・社会科学のなかの概念を学び、その語彙のなかに閉じるだけでなく、その概念を活用して他者との対話に活かしてこそ意義がある（人前で踊って見せてナンボ）という考え方である。人文・社会科学のインタープリターの養成というものがあつたら、このテクスチュアル・パフォーマンスを専門書だけでなく一般のひとにむけて磨くこと、そして「テキストで踊って見せてナンボ」を学ぶことにあるのだろう。

科学技術インタープリター養成プログラム
<http://science-interpreter.c.u-tokyo.ac.jp/>

救援・ 復興支援室 より

第52回

本学の救援・復興支援室の最近の状況や、遠野分室の日々の活動の様子をお届けします

救援・復興支援室の活動(8月～9月)

8月	福島県大熊町の避難生徒への学習支援ボランティア、東日本大震災被災地スタディツアー
8～9月	岩手県陸前高田市「学びの部屋」学習支援ボランティア、福島県相馬市「寺子屋」学習支援ボランティア

ザシキワラシの日常²⁶

本部企画課係長(遠野分室勤務)



文：佐藤 克憲

以前この欄において、遠野市が市内の廃校を活用し被災地も含めた地域活性化事業を行う「遠野みらい創りカレッジ」の紹介をした際、同所を利用して「東大イノベーション・サマープログラム」(TISP) が実施されていることについて触れたのですが、今年も8月8日～12日にTISPの「東北プログラム」が同所で行われました。TISPは本学の「知の構造化センター」が、本学の学生を中心にイノベーションを生み出す力を養うための教育を行っている「i.school」という教育プログラムで2013年から8月上旬に2週間程度実施しているもので、募集・選考を経て選ばれた本学学生、海外有力大学の学生各20～30名が、前半の1週間程度は東京においてイノベーションを起こしたり社会問題を解決したりする技術等を学び、後半は東北において地元の高校生と共に「地域イノベーション」を目指してアイデアを考えるという構成になっています。

今回遠野では、本学学生及び海外の大学生が地元の高校生と共に班を作り、「東京プログラム」で学んだことや東北の日程前半で行った民泊（遠野の一般家庭への宿泊）経験を基に高校生への効果的なアイデア創出方法を考え、それをレクチャーしつつ高校生のアイデア創出をサポートし、最終日には各班でアイデアをまとめた上、遠野市長等へプレゼンテーションを行いました。「遠野物語」の継承と観光客増加を併せて実現するものや、米の収穫後大量に残る「稲わら」を有効活用するもの等非常にユニークな内容のものも出され、プログラムの優秀さ、参加大学生のレベルの高さ、そして高校生の可能性の大きさに驚かされたひと夏でした。

今回もお読みいただき「オアリガトガンス！」。



(左)高校生へのアイデア創出方法レクチャーの様子。(右)最終日のプレゼンテーション(概要の「寸劇」中)。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/info_j.html
kyuenfukkou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp 内線：21750(本部企画課)

トピックス

全学ホームページの「トピックス」(<http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/news/topics/>)に掲載した情報の一覧と、その中からいくつかをCLOSE UPとしてご紹介します。

掲載日	担当部署	タイトル	実施日
8月12日	本部社会連携推進課	高校生のための東京大学オープンキャンパス 2015 開催	8月5～6日
8月12日	医科学研究所	第10回研究所ネットワーク国際シンポジウム参加報告	7月23日
8月19日	本部広報課	ケネディ駐日大使とゴッテモラー米国務次官が東大を訪問しました	8月7日
8月25日	本部国際交流課	「Amgen Scholars Japan Symposium」が開催されました	8月1日
8月25日	人文社会系研究科・文学部	平成27年度「文学部夏期特別プログラム」を実施しました	8月1日
8月27日	宇宙線研究所、カブリ数物連携宇宙研究機構	女子中高生進路支援イベント「宇宙ヲ覗クト？」を開催しました	8月22日
8月28日	国際本部	北京大学（戦略的パートナーシップ協定校）幹部職員研修の実施	7月27日
9月4日	教育学研究科・教育学部	東京大学教職支援ネットワーク設立イベント開催報告	8月23日
9月8日	教育学研究科・教育学部	大学院教育学研究科「発達保育実践政策学センター」を開設	7月1日
9月8日	教育学研究科・教育学部	「発達保育実践政策学センター」設立記念国際シンポジウム開催報告	8月22日
9月8日	本部博物館事業課	親子小石川ミュージアムラボ 2015 夏「カメン×ヘンシン→テンジヒン——変身しよう、みんなの博物館」の開催	8月22～23日
9月9日	広報室	広報誌「淡青」31号を発行しました	9月9日
9月10日	工学系研究科・工学部	女子高生へも工学部の魅力を伝えた高大連携ボーイング講座	8月20日

お知らせ

人事異動情報など全学ホームページ「お知らせ」(<http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/news/notices/>)・東大ポータル等でご案内しているお知らせを一部掲載します。

掲載日	担当部署	タイトル	URL
8月4日	本部総務課	平成27年度東京大学秋季入学式	http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/news/notices/notices_z1301_00002.html
8月4日	本部総務課	平成27年度東京大学秋季学位記授与式・卒業式	http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/news/notices/notices_z1301_00003.html
9月1日	本部人事給与課	人事異動（教員）	http://www.ut-portal.u-tokyo.ac.jp/wiki/index.php/人事異動（教員）



CLOSE UP

女子高生にも魅力を伝えるボーイング講座を実施（工学系研究科・工学部）



航空機開発を行う技術者との中継。



未来の旅客機について話す高校生。

8月20日（木）に本郷キャンパスにて第5回高大連携ボーイング講座を産学連携本部、航空宇宙工学専攻と国際工学教育推進機構バイリンガルキャンパス推進センターにより開催しました。東京大学は、2013年より米国Boeing社が世界的に展開するBoeing Higher Education Programのサポートを受け、「世界の将来を担うべき優れた科学者・エンジニア」を育成する事業を実施しています。今回は「航空工学」をテーマとして開催し、講座には埼玉県立浦和高校、浦和第一女子高校、大宮高校、川越高校、川越女子高校から25名の生徒と10名の先生が参加しました。

本プログラムの代表である鈴木真二教授（航空宇宙工学専攻）による挨拶のあと、Boeing

社で開発を行う日本人技術者からスカイプを通して航空機開発の魅力や海外で仕事をする楽しさ、苦勞を聞き、質疑応答も行いました。また航空宇宙工学専攻の4研究室訪問により「空気力学」「構造と材料」「推進」「制御」の面から航空機を学びつつ高校の授業とのつながりを知ってもらいました。その後は高校生が学んだ知識を持ち寄って未来の旅客機提案に取り組み、ユニークな提案がなされました。

アンケートによる工学への関心についての5段階評価で、男子は受講前後の平均値の変化が4.5から4.6だったのに対して女子は3.8から4.8。特に関心が2以下だった3名は4又は5へと変化しました。本講座では工学部を敬遠している高校生へも工学の魅力を伝えることができました。



CLOSE UP

広報誌「淡青」31号を発行（広報室）

表紙は弥生講堂アネックスの夜景。強い光によってハチ公像の影が！



本部発行の学外向け広報誌「淡青」31号（9月9日刊）の第一特集は、「五神新体制始動。東京大学を励起する」です。本年4月の就任以降、東京大学を「知の協創の世界拠点」にすべく、強い光を学内外に照射している五神総長。アジア人初の地球環境ファシリテ

ィCEOとして世界を股に活躍している石井菜穂子さん（本学経済学部卒）とのスペシャル対談や、「UTokyo Research」による研究紹介原稿、第30代総長を支える理事7人の紹介等を通して、この6年間の東京大学を牽引する新執行部の横顔を伝えます。



CLOSE UP

高校生のためのオープンキャンパス2015を開催

(本部社会連携推進課)



8月5日(水)～6日(木)、本郷地区キャンパスにおいて、高校生のための東京大学オープンキャンパス2015が開催され、2日間で約19,000名(5日:約10,100名、6日8,900名)の参加登録があり、当日は多くの高校生で賑わいました。

参加者は、各学部等の模擬講義や研究室見学等を通じて、本学の教育・研究活動を体験しました。また、現役学生による東大ガイダンス、キャンパスツアー(写真)、女子学生コース等の企画も盛況でした。



CLOSE UP

教職支援ネットワーク設立プレイベントを開催

(教育学研究科)



大桃敏行 教育学研究科長による開会挨拶。

8月23日(日)に、東京大学教職支援ネットワーク設立プレイベントが開催されました。50名近い会員の方々(卒業・修了生、在学学生、教職員)にご参加いただき、勝野正章 教育学研究科・教授、今村聡子 本部・経営支援担当部長、岡田直人 埼玉県立浦和高等学校・主幹教諭の3名による講演と参加者同士の交流会が行われました。大学教員、教育行政、現場の教師といったそれぞれの立場からの講演は参加者

の関心も高く、多くの質問が寄せられました。交流会では4、5人でひとつのグループになり、自己紹介等をして交流を深めていただきました。

東京大学教職支援ネットワークは、本学を卒業・修了されて学校教育現場でご活躍なさっている方、教職を志す在校生、教職課程に携わる教員らが集う会です。本学の教職課程の発展に資する交流を行う場、また、会員のみならずからのご意見を頂戴できる場を目指しております。



CLOSE UP

女子中高生進路支援イベントを開催

(宇宙線研究所・カブリ数物連携宇宙研究機構)



大石理子ICRR助教による講義風景。

8月22日(土)、宇宙線研究所(ICRR)とカブリ数物連携宇宙研究機構(Kavli IPMU)共催による女子中高生を対象とした進路支援イベント「宇宙ヲ覗クト?」を開催し、38名の女子中高生が約6時間に渡るプログラムに参加しました。

参加者は5班に別れ、お互いに自己紹介をした後、大石理子ICRR助教による講義「宇宙線が生まれた場所を探して」を聴講しました。

講師とTA(Teaching Assistant)の大学院生と一緒に昼食をとった後、森谷友由希Kavli IPMU特任研究員による講義「ブラックホール?それともバルサー?ガンマ線連星の正体に迫る」を聴講しました。続いて、パラボラ鏡を使った実験「鏡望遠鏡でステレオ観測!」に

参加し、班別にその観測精度を競いました。

この間、参加者の保護者を対象とした講師との懇談会を並行して実施しました。和やかな雰囲気の中、森谷研究員に加え、森井友子Kavli IPMU学術支援専門職員による、研究者や理系選択に関する質問への自身の経験を織り交ぜた回答を受け、保護者の方々は女性の理系進学についてポジティブな印象を受けた様子でした。

記念撮影の後、講師と院生、保護者を交えた懇談会を行いました。実験を経て交流を深めた参加者は、お茶を飲みながら宇宙についての会話を満喫し、宇宙の多様さ面白さを改めて感じた様子でした。また講師や院生の話を直接聞くことで、研究生活への期待を高めたようでした。



CLOSE UP

ケネディ駐日大使とゴッテモラー米国務次官が東大を訪問

(本部広報課)



熱心に語るゴッテモラー米国務次官(左)とケネディ駐日米国大使。

8月7日(金)、キャロライン・ケネディ駐日米国大使とローズ・ゴッテモラー米国務次官が本郷地区弥生キャンパスを訪問し、STEM教育と女性の教育をテーマにした討論会に参加しました。STEM教育とは、サイエンス(Science)、テクノロジー(Technology)、エンジニアリング(Engineering)、数学(Math)に重点を置いた教育のこと。東京大学からは生産技術研究所の大島まり教授(情報学環兼任)と13名の学生が

討論会に参加しました。

ケネディ大使は国際社会ではほぼすべての分野でSTEM教育が不可欠であることを強調し、ゴッテモラー米国務次官はSTEM分野が日米関係だけでなく世界の経済の安定にとって重要だと語り、大島教授は特に女子学生に対するSTEM教育が大事だと述べました。討論の最後には、「米国政府は皆さんに大きな期待を寄せています」と学生たちを奨励し、会の幕が下りました。

第14回東京大学ホームカミングデイ開催のお知らせ

(卒業生室)

卒業生と大学との交流を深めることを目的として、例年本郷と駒場で開催している東京大学ホームカミングデイが、10月17日(土)に開催されます。メインプログラムとなる特別フォーラムは、全面改修を終え

た安田講堂がテーマ。陣内秀信教授(法政大学デザイン工学部)をモデレータに、藤井恵介教授(工学系研究科)、吉見俊哉教授(情報学環)、千葉学教授(工学系研究科)のバネリスト3人が、創建90年を迎える東

大のシンボルについて語ります。各種講演会、年次卒業生が集まる周年学年会、親子参加型イベント、模擬店など、その他の企画も特設サイトでぜひご確認ください。
www.alumni.u-tokyo.ac.jp/hcd/



研究活動 – 還暦を前にして –

東京大学教員の定年は、平成13年度から3年に1年ずつ延長し、平成25年度には65歳になった。また、部局によっては、様々な形態で定年後も東京大学に所属し活動を継続している教員もいる。定年延長の理由は、「年齢による差別をせず柔軟な人材活用をするため」と言う理由の一方で、「年金支給年齢の引き上げにあわせてため」という現実的な理由もあったと考えられる。いずれにしても、現在東京大学では、状況次第ではあるが、65歳を超えて大学教員として活動を継続することが可能である。大学教員の活動は、大学運営や研究活動など多岐に亘る。その中で、健康上の問題を別にすれば、大学運営に関しては年齢が及ぼす負の影響はあまりないだろう。では、研究活動への影響はどうだろうか？

米国では雇用における年齢差別禁止法によって、年齢差別が規制されている。実際、私が大学院生の時に第一線で活躍していた米国研究者が、70～80歳代になった今も分野の大御所として活躍している。理系において米国では、研究費の獲得と研究活動が連動している。研究費が獲得できない場合は、研究室がなくなり、研究を続けることが不可能とな

るため学生教育への専任やその他の大学での活動に移行することになる。同時に、研究助成金申請書の審査は、過去の実績は評価されるもののノーベル賞受賞者も新たに研究室を持った若手研究者も同等に新規性が評価される。つまり、研究助成金申請書の審査が研究者の“剪定”を行っているわけである。

一方、高齢の世界的な指揮者が第一線で活躍するなど、年齢がパフォーマンスに及ぼす負の影響が話題にならない分野もある。理系の研究は、新たなものを創造する能力とともに研究を管理（マネジメント）する能力が要求される。マネジメント能力は経験とともに磨かれる。新たなものを創造する能力は人それぞれで、その能力が持続する人もあればそうでない人もいるだろう。最先端の科学を推進するためには、何がベストなのか60歳を前にしてふと考える。

河岡義裕
(医科学研究所)